

なるあしまほき車など輪ををしひしがれ、あはれげなるもあり。うきはしのものなどにも、このましうたちさまよふよきくるまおばかり、

〔源氏物語湖月抄二十九〕うきはしのもと 細行幸の道の橋也。ばしわたしの官人とて、檢非違使の故實ある事也、

〔後撰和歌集十四〕おとこのたゝなりける時は、つねにまうできけるが、物いひてのちは、かどよりわたりとまでこざりければ、よみ人しらず、たえざりし昔だにみじうきはしをいまはわたると音にのみきく

〔續古事談五道〕白河院法勝寺へ御幸アリケルニ、大雨アリテ水オビタ、シクイデ、浮橋ナガレタリケルニ、盛重後陣ニツカウマツリタリケルガ、沓ヌギテク、リタカクアゲテ、御車ノサキニス、ミイデ、アサセヲフマセテ、御車ヲワタシケリ、カヤウノヲリニツケタルフルマヒ、人ニスギタリケリ、

〔中右記〕永久二年七月十八日、辰時許參院付宗實奏事○略○中行幸、浮橋便早令渡、可用放生會之由欲下知如何、是嘉保二年石清水行幸浮橋便用臨時之例也、仰云早令作橋可用放生會也、

〔長秋記〕天承元年三月十九日丙辰、稻荷祇園兩社行幸也、午始著稻荷社○略○中事了葦御輿、諸卿前騎、更渡浮橋指入京中、

〔山槐記〕保元四年正月九日甲子、今夜可有御方達行幸○略○中出御條○二承明、建禮門將公親仰御綱○中賢門東行、東洞院南行、郁芳門大路東行、入御自押小路殿○河原渡○略○中浮橋

〔庭槐抄〕治承二年四月廿九日、召使來催云、明日御方達行幸可參者、今日河水彌增、人馬不往來云々、行幸有無内々尋女房之處、如只今者、猶可有行幸之儀也、可參云々、猶進使於内裏○略○中使即歸來云、行幸猶必定也、早可參者、即馳參、河水甚深、尤有其恐、于時下人云、行幸已成○略○中仍自後陣過御輿了、